

子どもたちに自己評価をさせるという問題もある。すべての教科書に採用されている。教師には、生徒の道徳の評価は数値で行わず、記述で行うとされているが、教科書によっては、生徒に1～4などの数値で自己評価をさせるものもある。全時間、自己評価し、愛国心でも同様に自己評価する。生徒も様々で自己評価を高く書く生徒もいるし、低く書く生徒もいるが、まじめな生徒は次はいい評価ができるように頑張ろうと追い込まれていくだろう。教師からすると、多忙化の中で、教科書に評価や感想を書き込めば簡単に授業ができるので、活用するかもしれないが、それは生徒たちに徳目の価値観に落とし込んでいくことになる。

●私たちにできることは・・・

これからの取り組みについては

- ①教科書の見本本を読み、意見を出す。先生の意見を尊重してほしいと書いてほしい。日本教科書の問題点を書く。
- ②子どもの内心の自由を守ろう。道徳の教科化の問題点について声を上げる。
- ③自由な道徳の授業ができるように、子どもに価値観を押しつけないような授業を求めていく。
- ④どの子ども人間として大切にされる教育をすすめる。



中学校道徳教科書採択問題での「声明」を教育長や校長に送付

現在、来年4月から使用される中学校道徳教科書採択作業が全国各地で行われています。

こうしたなか、徳島県教職員の会は、「来年度から使用される中学校道徳教科書の採択と『日本教科書』の中学校道徳教科書について」と題する「声明」（同封文書）を7月11日に発表しました。この「声明」は、「日本教科書」の道徳教科書の異常さを指摘し、「教科書採択は、政治的圧力を排し、子どもと教員を中心にすえて」行われる必要があると述べています。

なお、教職員の会は、この「声明」を、徳島県内のすべての教育長と中学校校長・道徳教育推進教師に送付しました。

1. 1年生の心の成長を振り返りましょう。
自分のレベルを判断してレベルのところの点に○をつけましょう。

1レベル：意味はわかるけれど、大切さを感じない。				
2レベル：大切さや意味はわかるけれど、態度や行動にすることができない				
3レベル：大切さや意味は理解していても、態度や行動にできる時とできない時がある				
4レベル：大切さや意味は理解して、多くの場面で態度や行動にできている				

I：自分に関すること II：他の人との関わりのこと III：自然や命のこと IV：集団や社会との関わりのこと

中学生で身につけたい22の心		1LV	2LV	3LV	4LV
I	自分で考え判断し行動し、責任をしっかりと持つ心	-	-	-	-
	望ましい生活習慣を身につけ、バランスのとれた生活を送る心	-	-	-	-
	自分を究め、習性を伸ばして、自分を成長させようとする心	-	-	-	-
	困難に負けない希望や勇気などの強い心	-	-	-	-
	夢や目標を持ち、前向きに生きる心	-	-	-	-
他の人々に対する思いやりの心と					

第58回 徳島県母親大会

第1分科会「今、子どもたちに『幸せに生きる力を』」報告

●問題提起者 小池清さん

1.はじめに 今、子供達の状況に危機感を持っている。

2.子どもたちが幸せに生きる力を阻むもの

・その1 豊かに成長していくべき子供期の貧困化・少年期の剥奪

三間の保障（時間、空間、仲間）が大切であり、子どもの権利である。しかし、親は長時間労働に従事せざるを得ず、子どもの声に耳を傾ける時間とエネルギーを奪われている。学校は学力向上政策のもとで競争主義的性格がさらに強まり、不登校、校内暴力、いじめは増加している。自殺の発生率も急増している。子どもは自由な時間が減り、種々のプレッシャーと不安で緊張状態が続いている。

・その2 新学習指導要領

新教育基本法に書いてある「必要な資質」は、政府がその中身を決めており、無制限に教育に介入してくる。教育課程の全分野にPDCAサイクルを導入することによって、数値と効率を優先する全校スタンダードの指導が強要されている。学力テストは、なんと高校まで計画されている。英語の導入も問題である。英語が増えることによって学校のカリキュラムは破裂寸前。中1の学習内容が5、6年生に下りてくる。教員の英語の専門性も危惧。道徳も問題。徳目の押し付けが懸念される。幼児教育の育成すべき資質・能力は10項目もあげられている。小学校入学時の姿として求められるなら相当なプレッシャーがかかる。

3.子供達に幸せに生きる力を育むために何が必要か

受容的応答的に対応してくれる大人たちの存在が子育ての保障となる。常に新しい発見があるような遊び活動や学びを考え、実践していく必要がある。子どもが自己決定する場面を保障し、他者とつながる取り組みをする。

4.子どもたちを苦しみから守るための具体的な取り組みとして

家庭。親はどれだけ、わが子を具体的に褒めるか、認めるかが非常に重要。毎日の褒め記録でも作って交流してはどうだろうか。あなたは大切であるというメッセージを18歳まで伝え続けたい。徳島の子どもたちの幸せを広げる連絡会的なものをつくったらいいのではないかな。子どもたちが校則や自分たちの未来に積極的に意見表明できる機会をつくる。子どもの権利基本法の制定を応援したい。福井県では学力テストによって中学生が自殺している。福井県議会は教育行政に対して素晴らしい意見書を出している。乳幼児を持つ労働者には子育てをする期間、残業を禁止しようとする提案もある。

●問題提起者 平岡保人さん

ひまわり学校の5つの特徴を紹介する。①みんなでやるから楽しい。みんなが同じ方向を向いているから、みんなでやるから、失敗しても楽しい。②失敗から学ぶ。井作りをしたがレシピは無い。レシピは頭の中。だが、とてつもない井が出来上がった。③異年齢集団と触れ合う。違う世代と触れ合う。新しい思考軸をつくれるのでは。④自然との触れ合いを通じて新しい自分を発見できる。自然は自分の思い通りにはできない。⑤みんなで決めてみんなで守る。大人たちも話し合いの仕方を知らない。原案を提出。話し合っって修正していく。一人の意見を大切にす。伸びる力は子供達の中にある。自分で伸びていく力は子供達の中にある。認めてくれて支えてくれる自分以外の誰か。失敗しても大丈夫。チャンスはまだある余裕。目くじら立てる必要はない。ゆったり待つてあげる。大人の余裕も必要。

